

父へく青い朝顔く

中村 実千代 栃木県小山市 六十三歳

去年の夏に友人からもらった朝顔を育て、たくさんの種を採って、今春にプランターに蒔きました。

五月のある日、小さな双葉が顔を出したのを皮切りに、今では、五、六個の芽が出て、毎日少しずつ大きくなっています。

お父さん、空から私の朝顔が見えますか？

お父さんは朝顔が大好きで、狭い裏庭の北側に垣を作り、それはそれは大切に育てていましたね。

髭を剃りながら花に顔を寄せ、ときどきニヤツと独り笑いをしていた横顔が、庭の草木の間からよみがえり、懐かしくて堪りません。

悲しい事情を抱えて孤独なまま生きていたお父さんの、たったひとつの楽しみは、庭に優しく咲く朝顔だった。

「明日の朝、青いきれいな朝顔が咲くぞ」

朝の食卓で目を輝かせて告げるお父さんに、真剣に応える者は誰もいなかった。

でも私、そっと見ていたのよ。布団から顔を出し裏庭を覗いてみたら、ステテコ姿のお父さんが青い朝顔の前にしゃがみ込んで、夏の朝日

を浴びながらじっと動かずに花を見ていた。背中を丸めて淋しそうに……。

ごめんね、お父さん。一緒に朝顔の世話をして「お父さんは朝顔名人だね」と言ってあげればよかった。

もうすぐ、あの日と同じ青い朝顔が開きます。そうしたら、空から朝露をひと粒、花卉に落としてくださいね。私、待っています。